



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アザラシの腸内寄生蟲
Author(s)	若園, 武; WAKAZONO, Takeshi
Citation	北海道大學農學部邦文紀要, 1(3), 312-314
Issue Date	1953-03-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/11530
Type	departmental bulletin paper
File Information	1(3)_p312-314.pdf



アザラシの腸内寄生蟲

若園 武

(北海道大學農學部動物學教室)

Some parasites in the intestine of a seal,

Phoca vitulina Linnaeus, 1758.

By Takeshi Wakazono

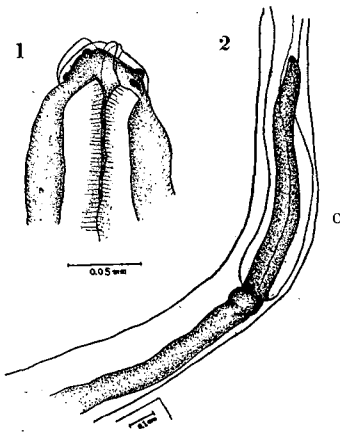
(Zoological Institute, Faculty of Agriculture, Hokkaido University)

昭和25年5月1頭のフイリアザラシ *Phocavitulina* が北海道留萌沿岸に打ち上げられ、民間人によつて數週間飼育された後に北大博物館に寄贈されたが、短期間飼育された後斃死した。著者はその腸内より Nematoda, Trematoda, Cestoda, Acanthocephala 各1種、個体數は夫々5, 44, 1, 2を得たのでここに報告する。但し Cestoda に就ては猶同定未完成の爲後日の報告に譲ることとする。

1) *Ascaris capsularia* Rudolphi, 1802

Syn: *Agamonema capsularia* Diesing 1851

本種は Rudolphi が 1802年 *Porrocaecum decipiens*



第1圖 *Ascaris capsularia* Rudolphi, c 1802

1…頭部 2…盲囊 (C) を示す。

Krabbe, 1878年の幼体に對して命名し、後1851年に Diesing によつて海産魚類に寄生する線蟲類の幼体を含む *Agamonema* なる1屬中に配せられたものである。今回著者の得たものも亦幼型で腸に盲囊を有するのが特徴で、頭部には3個の唇を有し蟲体の大きさ及び形態は第1表並びに第1圖に示す如くである。

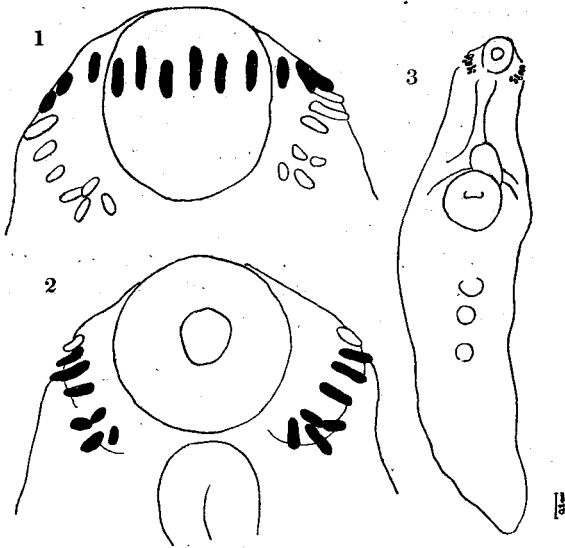
第1表 *Ascaris capsularia* の測定値

	1	2	3	4	5
体長	9.85	13.95	11.15	8.8	—
体幅	0.42	0.29	0.32	0.31	—
口幅	0.12	0.13	0.07	0.17	—
盲囊	0.5	0.82	0.96	0.77	—
尾長	0.25	0.17	0.17	0.12	—

[註] No. 5 は蟲体破損のため測定不能 (單位 mm)

2) *Echinostoma* Sp.

本屬は 1809 年に Rudolphi によつて創設せられたもので、本種の外形は筧形狀を呈し、体長 3.866~1.599 mm, 体幅 0.533~0.399 mm である。頭冠は腎臟形を呈し、頭冠齒棘は2列に並び、26本の中、8本は4本づつ隅葉に在る。口吸盤は体の前端腹面に位置し腹吸盤は体の前方約 $\frac{1}{4}$ の部に在り、睾丸は体の後半部に前後に並ぶ。陰莖囊は腹吸盤の後縁を越えることなく、内部に攝護腺部を認む。卵巢は前睾丸の前方正中線上に在り、卵



第2圖 *Eccinostoma* sp.
 1…頭冠背面圖(×32) 2…頭冠腹面圖(×32)
 3…全形圖

黄腺は腹吸盤の後縁の高さより始まり、体の両側に分布し、体後端近く終る。皮膚小棘は体の腹面及び背面の前方を被う。第2表及び第2圖は夫々その大きさ並びに形態を表わしたものである。種名に就ては獨疑問の點があるので更に検討したい。

第2表 “*Echinostoma* sp.” の測定値

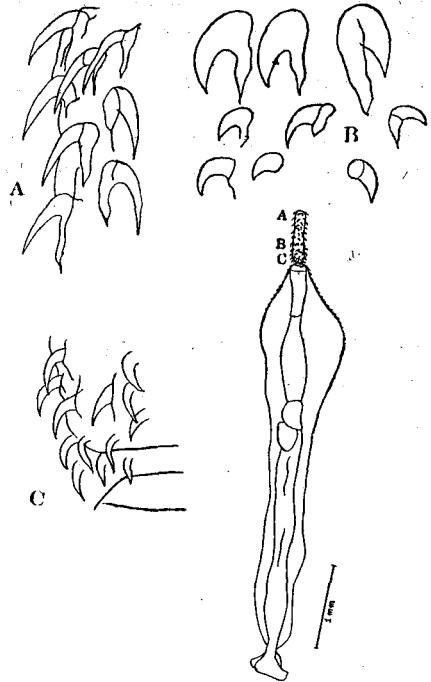
体長	3.866~1.599 mm
体幅	0.533~0.399 mm
頭冠	0.292~0.142 mm
齒棘數	26
腹吸盤	0.333~0.208×0.333~0.167 mm
前鰓丸	0.183~0.049×0.133~0.025 mm

3. *Corynosoma strumosum* (Rudolphi, 1802)

Syn.: *Echinorhynchus strumosus* Rudolphi, 1802;
E. hystrix Bremser, 1809; *E. ventricosus* Rudolphi;
E. gibbosus Rudolphi; *E. striatus* Villot 1875;
E. gibber Olsson

得られた蟲体は2個体とも雄で、外形は棍棒状を呈し、体の前半は後半に比べて著しく膨大し体長6.1~5.6 mm、体幅1.1~0.9 mmである。吻は圓筒状を呈し、吻鉤は5乃至6列に並び、各列10個内外で、その大きさ及び形は著しく差異があり

第3圖に示す如くである。鰓丸は相接してほぼ楕圓形を呈し、正中線上体のやや中央に位置する。鰓丸の直後にセメント腺も認められるが、數及び形は不明である。



第3圖 *Corynosoma strumosum* (Rudolphi, 1802)

全形圖及び吻鉤の形大き(×190)を示し、A, B, Cは夫々吻鉤の位置を現わす。

以上の如く著者はアザラシの3種寄生蟲に就ての形態を記載したが、今回著者が *Ascaris capsularia* をアザラシから發見したことは一つの新しい知見を得たものと信ずる。既に Baylis (1916) 等によつて報告されたものは海産の魚類より得たものであつた。著者が本報告の冒頭に記した如く、このアザラシは捕獲後約1箇月間魚類を與えていたことからすれば、魚類に寄生した本蟲のアザラシ体内への迷入をも一應疑われるのであるが、從來アザラシの寄生蟲と魚類のそれとが多く共通すること及び本蟲が魚体内と同様未だ幼型であつたことからすれば、アザラシは魚類同様本蟲の固有宿主として考えることが妥當のようである。

終りに臨み、犬飼教授に敬意を表し、材料の

提供並びに種々御指導を賜つた山下助教授に深謝する。

文 献

- 1) Harley, J. van Cleave (1939): An analysis of hook measurements in the Acanthocephala. Volumen Jubilare pro Professore Sadao Yoshida. Vol. 11, pp. 331-338.
- 2) 岩田正俊 (1938): 條蟲綱(日本動物分類, 第4巻, 第3編), 東京.
- 3) H. A. Baylis, B. A. (1916): Some Ascarids in the british museum (natural history). Parasitol., Vol. 8. pp. 360-378.
- 4) Meyer, A. (1932): Acanthocephala in "Bronns' Klassen und Ordnungen des Tier-Reichs, Bd. 4."
- 5) S. Yamaguchi (1940): Studies on the Helminth Fauna of Japnn. Part 31. Trematodes of Fishes, VII. Jap. J. Zool., Vol. IX, No. pp. 35-108.
- 6) ————— (1941): Studies on the Helminth Fauna of Japan. Part 33. Nematodes of Fishes, 11. Jop. J. Zool., Vol, IX. No. 3, pp. 343-396.
- 7) 山下次郎 (1938): Echinostomatidae の亞科及び屬の檢索表 (Echinostomatidae の研究 其の一). 動物及植物, 第6巻, 第5號, 23~36頁.

Résumé

The writer found some parasites in the intestine of a seal, *Phoca vitulina* Linnaeus, 1758, that was captured on the shore of Rumoe, Hokkaido, in May of 1950 and died after several weeks feeding.

The parasites were *Ascaris capsularia* Rudolphi, 1802 (5 specimens), *Echinostoma* sp. (44 specimens), *Corynosoma strumosum* (Rudolphi, 1802) (2 specimens) and one unidentified cestode.

The writer would like to point out an interesting fact that *Ascaris capsularia* is found from the intestine of the seal.